

マネージド・ファイル転送センター・ オブ・エクセレンスのデータによる、 データ配信と、価値の提供による コストの削減

Daniel Sweeney 著 (IBM ソフトウェア・グループ
マネージド・ファイル転送製品と業界のスペシャリスト)



目次

- 2 マネージド・ファイル転送センター・オブ・エクセレンスを、組織が必要とする理由
- 3 マネージド・ファイル転送センター・オブ・エクセレンスの定義
- 4 組織にとってのメリット
- 5 役割と実行責任
- 8 サービス利用の開始方法
- 10 ベスト・プラクティス
- 11 IBM Smarter Commerce アプローチによる支援方法



組織がマネージド・ファイル転送センター・オブ・エクセレンスを必要とする理由

多くの組織が、広範囲のファイル転送アクティビティを制御し、管理する方法として、マネージド・ファイル転送 (MFT) を採用しています。これらの組織では、MFT 製品の導入により、ファイル転送プロトコル (FTP) トランザクションから固有のリスクを取り除いて移動するデータのセキュリティーを強化したほか、サービス・レベル・アグリーメント (SLA) を監視して、重要なファイル転送プロセスを確実に管理できるようにするためのツールを実装しました。これらはすべてマネージド・ファイル転送を導入するときの重要な考慮事項ですが、他にも考慮しなければいけないことがあります。

戦略の明確な方向性、組織の標準、そして最も重要な事項として、企業内の MFT の技術的慣行と運用慣行が組織的に確立されていること。ビジネス・ニーズに対応するためには、これらが不可欠です。問題は、戦略的エンタープライズ・アーキテクチャーの一部として、MFT 機能を実装するための標準化されたアプローチが、ほぼすべての業界における大部分の組織で使用されていないことです。

エンタープライズ・リーダーシップ、戦略、およびアーキテクチャー的アプローチがない企業は、しばしば、複数の社内ソリューションを開発したり、特定のプラットフォームやビジネス・ユニットに合う多数のベンダー・ソリューションを購入したりすることがあります。それらのそれぞれのポイントで使われるソリューションは、組織全体における総所有コスト (TCO) とファイル転送の複雑さを増加させます。複数の MFT ソリューションを導入することで、データ移動、セキュリティー、可視性、ガバナンス、監査能力、管理に関する複雑さが増大します。このような、問題や課題の解決が難しいと考えている組織は、IBM® Smarter Commerce アプローチのような、画期的なビジネス・イニシアチブを推進することで問題を解決できます。このアプローチは、購買、マーケティング、販売、サービスなど、取引プロセスのサイクル全体を最適化することに焦点を置いて、お客様をビジネスの中心に位置付けます。

お客様中心のモデルを採用することで、企業では、内部プロセスの調整を図り、企業内におけるより効率的なつながりと共同作業、取引の実施、バリュー・チェーン全体での差別化されたカスタマー・エクスペリエンスの創出を実現できるようになります。この戦略の主な基盤となるのが、センター・オブ・エクセレンス (COE) により管理される MFT アーキテクチャーです。マネージド・ファイル転送センター・オブ・エクセレンス (MFT COE) は、信頼性のある、セキュリティが確保されたデータ移動機能と、バリュー・チェーン全体を同期させるのに必要なプロセス管理機能を組織に提供するほか、ビジネスの成果をより迅速に、より予測しやすい形で提供します。

多くのビジネス・マネージャーは、さまざまなシステムやプロセスを統合して、製品の構築、トランザクションのクリア、サービスの提供を行うことの必要性を理解していますが、実際にファイル転送がどのようにビジネスを支えているのかについては、認識していない場合があります。MFT は、初めはそれが事業運営の中核となるようには思われなくてもいいかもしれません。しかし現在、信頼性のある、セキュリティの確保されたデータ移動に対するニーズは増え続けているため、MFT はビジネスの成功には不可欠のものとなっています。

本書は、ファイル転送テクノロジーとサポート組織を再調整して MFT COE を実現し、組織のファイル転送インフラストラクチャーを管理できるようにするための、お客様中心の戦略的なアプローチについて説明します。組織が以下を実現するために必要な、MFT COE の確立に関するガイダンスを提供します。

- MFT 製品への投資の合理化
- 標準的な方法で機能を提供するための、アーキテクチャー的アプローチの確立
- サービス提供およびサポートを最適化するための、運用プロセスと手順の確立

マネージド・ファイル転送センター・オブ・エクセレンスの定義

MFT COE は、現在の断片化された MFT アプローチを使用して、ファイル転送ソリューション、運用サポート・プロセス、手順の結果責任と実行責任を、1 つの組織内で統合する機会を企業に提供します。MFT COE には、以下のような、提供される製品およびサービスについて、あらゆる側面に結果責任を持つ、センター・オブ・エクセレンスの所有者が含まれます。

- サポートされる業種の、現在および今後のニーズの調整
- テクニカル・エンタープライズ・アーキテクチャーと戦略の確立、および、それらに対する製品投資の合理化について実行責任を持つチームの管理
- 提供されるサービスの、日々の運用に対する実行責任を持つ、運用サポート・チームの管理
- 最高品質のサービスを保証できるようにするための、プロセスと手順の最適化

MFT COE のリーダーシップと管理の下、組織では以下が可能になります。

- ベンダーの製品、および社内のソリューションの合理化
- 重複するインフラストラクチャーの統合
- テクニカル・サポート・チームおよび運用サポート・チームの、統合または再編成
- MFT に関する投資、および継続的に発生する経費を最適化するための、全社的な標準の確立

サービス品質とデータ・セキュリティが、各業種のニーズを十分に満たすことが保証されるようにする。MFT COE には、その実行責任があります。また、MFT COE テクノロジーのロードマップが提供するサービスが継続的に拡張され、各業種の要件に合致するように、ロードマップを維持します。

組織の標準を確立することも、MFT COE の重要な実行責任の 1 つです。例えば、ビジネス・アプリケーション開発チームがセルフサービス・モデルで、独自にファイル転送を作成できるようにするための、インフラストラクチャー、製品、可視性ツール、送信テンプレートの標準などです。セルフサービス・モデルにより、このモデルを使用しない場合には、MFT COE で発生する可能性のある開発およびサポートのボトルネックは軽減され、インフラストラクチャーの使用法について、その拡張をサポートするための IT スタッフの追加採用を行う必要性が減少します。MFT COE を確立しようとする企業の主な目標は、回復力があり拡張が容易なインフラストラクチャー、可視性ツール、サポートやファイル転送サービスのプロビジョニングに関する、向上したプロセスを提供することです。

MFT COE に対する結果責任と実行責任を調整することで、組織はファイル転送アクティビティのガバナンスと可視性を統合できます。これにより、MFT COE チームでは以下が可能になります。

- 外部のお客様へのサービス提供、およびファイル転送要件の詳しい状況把握
- 各業種の要件、および活動についての詳細な知識の習得
- ビジネス指向アプローチ、およびテクノロジー指向アプローチの両方の導入
- 製品間および各業種の企業間 (B2B) の要件に対する単一の窓口を、バリュー・チェーン・コミュニティに提供

MFT COE は、企業が機能、柔軟性、セキュリティ、監査能力、サービス品質、可視性に関する MFT ビジネス要件に対応できるよう、支援します。また、この焦点を絞った戦略的なアプローチを使用して、全体的なコストを削減できます。最高情報セキュリティ責任者、監督機関、監査員が主導するセキュリティ・ポリシーに適合するための、ベスト・プラクティスとプロセスを確立することにより、MFT COE は、増加し続けるセキュリティの脅威から企業ブランドを守るためにも役立ちます。

組織にとっての利点

MFT COE を確立している組織では、全社的にファイル転送テクノロジーを合理化、導入、および管理するための、より戦略的でアーキテクチャ的なアプローチを実践しています。この合理化とアーキテクチャ的なアプローチにより、全社的に、そして顧客、パートナー、サプライヤー、および政府関連機関のバリュー・チェーン全体で、データのガバナンス、監査能力、セキュリティが改善されます。

MFT COE 活動についてお客様中心のアプローチを実践することにより、企業では、ファイル転送プロセス、優先順位、および SLA (Service Level Agreement) を、サポートするバリュー・チェーン・プロセスに合致したものにできるようになります。また、フレームワークを使用することで、業界や法令の規定のほか、交換するデータに関する他の内部セキュリティと、コンプライアンス・ポリシーへの準拠が促進されます。

MFT COE を確立することで、多数の戦略的な利点が得られます。例えば、運用効率の改善、TCO の削減、Straight Through Processing (STP) の改善、重要なビジネス・プロセスの同期、より迅速なお客様のオンボーディングによる収益実現までの時間短縮などです。さらに、以下のような利点もあります。

- 業務範囲およびデータ・セキュリティの改善
- 内部および外部の、ファイル転送プロセスの可視性の向上
- サービスの品質および信頼性の向上
- 統合および標準化による、プロセス効率の改善
- ファイル転送サービスおよびリソースの、組織的配置の改善
- 商品化までの時間の短縮による、新規顧客の獲得
- システム統合の実現

上記の利点に加え、企業では、サポートするビジネス・プロセスの改善を実現する必要があります。ファイル転送アクティビティにおけるファイル転送失敗の低減と、信頼性、可視性の改善は、プロセスの同期を改善し、ビジネスのバリュー・チェーンに不可欠なデータをサポートするために、重要な役割を果たします。

役割と実行責任

MFT COE 運用モデルは、多くの場合、ベスト・プラクティスの IT インフラストラクチャー・ライブラリー (ITIL) フレームワークを使用して開発されます。ITIL フレームワークは、世界で最も広く採用されている、IT サービス管理のアプローチの 1 つです。これにより、企業が IT サービスの特定、計画、提供、サポートを行うための、实际的で現実的なフレームワークが提供されます。

通常、大きな組織では、MFT COE を通じて提供されるサービスのすべての側面について、1 つの部門が単独で責任を持つことはありません。そのような組織は、ハードウェア、ネットワーク、データベース、ソフトウェア・エンジニアリング、運用など、機能領域ごとに分割されています。こうした組織内のリソースを MFT COE に割り当て、MFT COE のサポートに必要な作業に集中できるようにする必要があります。規模の小さな組織では、1 つのチームで複数の役割を管理することができます。また、場合によっては、1 人で複数の役割を担うこともあります。

この運用モデルにおける主要な役割は、MFT COE サービス (製品) マネージャーです。この役割には、MFT COE のビジョン、提供するサービス、予算、サービス品質のほか、テクノロジー・ロードマップの作成および提供の確実な実行に対する、全体的な実行責任があります。サービス・マネージャーは、企業と協力し、SLA が実施されてビジネス・ニーズを満たすサービスが提供されるようにします。MFT COE サービス・マネージャーの実行責任は以下のとおりです。

- ビジネス要件、および優先順位に合致したサービスの提供
 - 組織が重視しているお客様中心の、ビジネス・ドライバーの把握
 - MFT COE のプロセスおよび優先順位を、これらのドライバーと合致させるための支援
 - 企業による、バリュー・チェーン全体における実行について、最適化の取り組みに応じた、優先順位の再調整

- 提供するサービスの品質および価値の管理
 - 既存の基幹業務や潜在的な基幹業務についての、サービスの提供における、コミュニケーションと内部マーケティングの監視
 - サービス調達、プロビジョニング、および請求と報告のプロセスの確立と監視
 - MFT COE と各業種、およびその業種のお客様との間の、SLA の確立と監視
 - サービスの全体コストまたは TCO の管理
 - サービスについての、内部および外部のベンチマークの実施
 - 部品調達および供給戦略の確認、また、外部ベンダーのパフォーマンス管理の確認
 - 提供するサービスの、全体的な品質の監視
 - MFT COE 機能 (ハードウェアまたは OS プラットフォーム、ネットワーク、データベース・サービス) を提供する内部サービス・プロバイダーとの、変更管理およびサポートに関するオペレーショナル・レベル・アグリーメント (OLA) の確立
 - サービス品質の監視、ベンチマーク、および最適化
 - サービス・デリバリー・チェーンを各側面から測定するための、メトリックの作成
 - MFT COE の基幹業務からのサービス・コストの回収
 - 正確なインベントリ・データを確実に維持できるようにするための、プロセスの確立と監視
 - チャージバック・データの迅速で正確な送信を保証するための、プロセスの確立と監視
 - お客様のチャージバックに関する質問を、処理し解決するプロセスの確立と監視
 - 提供するサービスについての、コストと価格設定の管理
 - サービス・ロードマップと各業種の要件に関連する、運用、エンジニアリング、および研究開発のコストの総計による、サービス・コストの決定
 - サービス戦略に沿った、サービス投資とビジネス・ケースの特定と優先順位付け
 - スポンサーシップについて確認し、サービスの方向性を特定の業種の要件に合致させる
 - 組織の支払い拒否プロセス (これが実行される場合) を使用したサービス・コスト回収の管理、および各業種との協力による、サービスの最も効率的な利用法の把握
 - サービスの導入におけるコスト節減、および進行中の効率性プログラムの特定
 - サービス・ロードマップの推進と展開
 - 企業や企業のお客様の、現在、また今後のニーズにサービスを合致
 - ベンダーおよびパートナーとの協力による、ロードマップに合致したテクノロジー変更の組み込み
 - 新規サービスの導入に関する、業界の認知度の維持
 - サービス・ポートフォリオへのサービスの導入、または廃止
- サービス・マネージャーは、MFT 運用およびマネージド・ファイル製品のエンジニアリング・チーム、ハードウェア・サポート・チーム、およびデータベース・サポート・チームと共に、OLA を作成します。OLA は、資金と人員の確保、運用慣行の確立、リソースの使用率 (人員とテクノロジーの両方) や SLA コンプライアンス・メトリックを追跡するためのデリバリー・メトリックの実施を保証します。

多くの組織では、コストを削減して運用効率を改善するために、一部またはすべてのファイル転送インフラストラクチャーが外部委託されています。サービス・マネージャーの役割は、企業に代わって、このようなベンダーとの関係、コスト、およびサービス品質の問題を管理することです。また、可能な場合には、サービス・プロバイダーを合理化し、外部委託されたサービスの費用を削減するために、ベンダーを統合する機会を見つけます。

外部委託された運用については、サービス・マネージャーは外部委託者と協力し、確立されたお客様中心のアプローチに基づいて、ファイル転送アクティビティの優先順位付けを確実に行えるようにする必要があります。そうしなければ、バリュー・チェーン全体の情報フローを同期させる取り組みの効果が、損なわれる危険があります。

MFT COE サービス・デスクまたはヘルプ・デスクは、新規サービスの要求や問題に関する窓口として利用される場合が多く、この両方についてトラッキング情報を提供します。また、サービス・デスクは、特にサポート・プロビジョニングと問題管理のテクノロジーが存在していない場合に、要求や問題管理のプロセスを簡素化するのに役立ちます。MFT COE サービス・デスクの機能は、内部および外部のファイル転送をサポートする標準化プロセスと手順を、企業が開始できるよう支援するものであり、すべての基幹業務をサポートするように拡張される必要があります。電話対応のために特別なサービス・デスク・ホットラインを設けることができます。これは、外部のお客様にとって利用しやすく、問題も短時間で解決できるため、特に便利です。

MFT COE が成功するかどうかは、多くの人の役割とその実行責任により、左右されます。

- サービス (製品) 管理:
 - 提供されるサービス全体の管理
 - 予算の作成と維持
 - 価格設定とチャージバックの構成
 - サービス・ロードマップの作成
 - サービスを確実に提供するための支援
- サービス・ヘルプ・デスク:
 - 内部および外部のユーザーに対するレベル 1・サービス・サポートの提供
 - サービスの要求の受け付け
 - お客様のテストの推進
 - 問題の受け付けとエスカレーション
 - 要求の管理
- 運用:
 - レベル 2・サポートの提供
 - サービスの継続的運用と、エスカレーションされてきた問題の解決支援
 - 新しい設定および変更要求の入力
- 製品エンジニアリング:
 - レベル 3・サポートの提供
 - サービスに対して品質テクノロジー・ソリューションを提供
 - サービス製品のロードマップに従った提供

サービス利用の開始方法

MFT COE とは何であり、どのようなサービスを提供し、組織においてどのような役割を果たすものなのか定義した後は、組織内の他の部門に、いかにうまくそれを説明するかが問題になります。

ファイル転送アクティビティ、関連する予算および人員の調節や、システムの所有ができなくなることを望まない利害関係者から、またおそらくは、使用するファイル転送サービスで発生する費用の増加に直面している基幹業務部門からも、MFT COE に対する反対意見が出る場合があります。MFT COE 戦略について、お客様中心のアプローチを取ることで、組織が共通の目標に向かってファイル転送アクティビティとリソースを調整することが可能になります。それにより、バリュー・チェーンの処理要件をサポートする、標準的で費用効果の高い方法で、ファイル統合コンポーネントを提供できるようになります。

組織的には、MFT COE を確立する適切な場所は、ミドルウェア・テクノロジー・サービス内になります。これらのサービスは、組織における役割やビジネス・スタッフ、そしてアプリケーション開発者と関係があるため、通常は企業とのやり取りについて、確立されたサポート・モデルを備えています。一部のファイル転送サービスが、ネットワーク・サービス組織で提供される組織も多くあります。しかし、インターネット接続の導入やファイル転送アクティビティの使用の増加などから、このような配置は、もはや理想的とは言えません。

MFT COE を確立する際には、現在の MFT アプローチで収集した情報を活用することが重要です。既存のファイル転送アクティビティの所有者は誰か、その所有者が組織内のどこにいるか、またサービス提供に関連するコストはどの程度か、といった情報です。また、開発者が記述した監視用のスク립ト、再試行、データ検証などのファイル転送アクティビティに関連する隠れたコストを見逃さないようにすることも重要です。このような項目は、部門間の人員配置の予算に埋もれているかもしれませんが、詳細に分析してみると、ファイル転送サービスの提供に直接関係しています。MFT COE について納得できるビジネス・ケースを構築するには、このようなコストや組織に対する影響を十分把握することが重要です。

ITIL サービス管理フレームワークを使用することで、業界の信頼性を得て、アプローチの利点を説明できるようになります。投資対効果検討書は、上級管理職だけでなく、MFT COE 組織の下で業務の役割と実行責任が再調整される可能性のある一般社員にも、理解してもらう必要があります。このため、MFT COE アプローチが財務面や、組織、そしてお客様サービスにもたらす利点について、文書化することが不可欠になります。

多くの企業が、IT モダン化と統合プロジェクトの一環として、MFT COE イニシアチブに取り組んでいます。このイニシアチブを組織のビジネス戦略に合致させることは、管理の可視性を確保し、MFT 戦略がビジネスの現在および将来のニーズに合致したものとなるようにするための、効果的な方法です。お客様をビジネスの中心に位置付ける Smarter Commerce 戦略を採用することにより、組織はお客様中心のビジネス目標を、それらの目標を実現するために必要なソリューションと合致させることができます。そうしたハイレベルのビジネス・イニシアチブに MFT COE を合致させることは、イニシアチブのビジネス価値の定義と資金の確保に役立ちます。

以下は、企業内の現在のソリューションとその関連コストを特定するプロセスを開始するときにお答えいただきたい、質問の一部です。

- アプリケーションは、どのようなファイル転送ソリューションに依存していますか。
 - どのソフトウェア・ベンダーの製品を使用していますか。
 - ソフトウェアがインストールおよび実行されている場所はどこですか。
 - サーバーの数は何台ですか。
 - サーバーでは、最新のオペレーティング・システムが実行されていますか。
 - インストールされているソフトウェアは、ご使用条件に準拠していますか。
 - ライセンス・キーの有効期限が切れた場合に、期限切れについての通知をしていますか。
 - データを暗号化していますか。
 - サーバーの稼働状況、すなわち 1 時間あたり、また 1 日あたりのファイル転送数はどの程度ですか。
- どのような履歴データを保存する必要がありますか、また保存するデータ量と保存期間はどのくらいですか。
- 環境全体の正常性はどのようにして監視していますか。
 - サーバーは稼働していますか、それともダウンしていますか。
 - 製品ライセンスは、近いうちに有効期限が切れますか。
 - いくつのファイル転送プロセスが、サーバー上で実行されていますか。
 - サーバー・アクティビティまたは他の情報について、日次レポートを実行していますか。
 - フェイルオーバー構成になっていますか。それは必要ですか。
 - 災害復旧が可能なように構成されていますか。それは必要ですか。
- データ転送に関して何を監視していますか。
 - 成功や失敗についてですか。
 - 転送は実行されましたか。
 - 転送は時間どおりに実行されましたか。
 - データは転送先に到達できましたか。
 - 到達時間は時間どおりでしたか。
 - 転送の実行にかかる時間がいつも長すぎたり短すぎたりしませんでしたか。
 - 失敗する転送の数はいくつですか。
- 全体として、上記の質問事項に対してどのように対処していますか。
 - 個人または配布リストに e メールを送信
 - Simple Network Management Protocol (SNMP) トラップを送信
 - プログラムを実行
 - サーバーにコマンドを送信
- ユーザーが表示および管理できるデータを制限していますか。
- ソリューションをサポートするスタッフは何名ですか。
 - サポート時間は何時から何時までですか。
 - 新たな転送のセットアップにかかる時間はどのくらいですか。
 - 問題の修正にかかる時間はどのくらいですか。
 - 1 カ月に発生する障害数はいくつですか。1 年ではどれくらいですか。

ベスト・プラクティス

MFT COE を設けることで、MFT のベスト・プラクティスを確立する機会が得られます。MFT COE により、トップクラスの MFT 機能を組織に提供するための専門チームを利用できるようになります。企業の専門家である MFT COE チームは、使用可能なテクノロジーについて、セキュリティー、運用効率、費用対効果に優れたインフラストラクチャーを提供しながら、ビジネス・ニーズを満たすための効果的かつ効率的な MFT COE の導入方法について、高度な知識を持っています。

MFT COE のベスト・プラクティスの確立に取り組むときには、以下のリストが、主要な考慮事項を決定するうえでの優れた足がかりとなります。

社内 MFT (内部)

- 共通の、信頼性のあるトランスポート・プロトコル
- 集中監視
- イベント・ベースの集中監査ログ
- プロセス自動化
- 各業種でのセルフサービス
- ソリューションの文書化および標準化
- チェックポイント・リカバリー
- 中央管理
- 暗号化されたデータ
- 暗号化されたファイル・システムおよび送信チャネル
- FTP に関するリスクの除去

マルチエンタープライズ MFT (外部)

- 取引パートナー管理
- 非武装地帯 (DMZ) での導入のためのセキュリティー強化
- B2B ガバナンスおよびセキュリティー
- 広範囲にわたる B2B のトランスポート・プロトコルのサポート
- 構成およびトランザクションの表示のためのユーザー・インターフェース
- 取引パートナーのトランザクションを表示するためのインターフェース
- 自動再送による配信の改善

監視および管理

- プロアクティブな監視
- 例外による管理
- SLA の確約に対するパフォーマンスの表示
- ファイル転送アクティビティーの全体的な可視性
- イベント・ベースの通知

境界セキュリティー

- DMZ ベースのプロキシを使用する。
- インターネットと内部サーバー間の直接接続を避けるために、セッションを中断する。
- パートナー・ユーザーが適切に認証された後に限り、DMZ から信頼されたゾーンへのセッションを確立する。
- DMZ にデータ、ファイル、またはユーザー資格情報を保存しない。
- ファイアウォールにインバウンドの穴を開ける必要がないようにする。
- Web サービスまたはユーザー・インターフェース・ポートを、DMZ でオープンにしない。
- 信頼性の低いゾーンから信頼性の高いゾーンまでを全探索する。
- プロトコル検査、コマンド・フィルター、および一般 URL エクスプロイトのブロックを使用する。

データ保護

- DMZ へのデータの書き込みまたは保管の禁止
- データ保全性を確保できるようにするための制御
- 強固な暗号オプション
- Secure Sockets Layer (SSL) および Transport Layer Security (TLS) のサポート
- 暗号鍵を保管するハードウェア・セキュリティー・モジュール (HSM) とのインターフェースによる保護の強化

認証

- 信頼されたゾーンではなく、DMZ でのユーザー認証
- Microsoft Active Directory データベースなどの外部ユーザー・リポジトリでユーザーを一元管理
- 「個人的に知っていること」および「個人的に持っている物」といった質問を使用した、多要素認証によるユーザーの検証
- シングル・サインオンおよびセルフサービス・パスワード管理のためのログイン・ポータルを使用して、サポート・コストを削減
- 役割ベースのアクセスを導入

ビジネスの調整

- ファイル転送アクティビティと、サポートするバリュー・チェーン・プロセスの同期
- お客様中心の運用アプローチにとって、最も重要なプロセスの特定および優先順位付け
- SLA を使用して、プロセス間の移動のみでなく、エンドツーエンドのバリュー・チェーン・パフォーマンスを監視

IBM Smarter Commerce アプローチによる支援方法

断片化された MFT アプローチを MFT COE に移行することは、組織にとって、組織的および技術的な課題となります。IBM は、上記の MFT COE ベスト・プラクティスの適用を可能にする、広範囲の製品ポートフォリオを提供します。IBM のオフリングは、セキュリティーの確保された方法でより信頼性を保ちながら、内部および外部のデータを移動するための MFT アーキテクチャーを提供し、ファイル転送環境の正常性を監視します。また、企業によるお客様の SLA の順守を支援し、DMZ におけるベスト・プラクティスのセキュリティー機能を提供します。

MFT における業界のリーダーとして、IBM には MFT ソリューションを企業が戦略的に導入し、MFT COE を確立できるよう支援してきた幅広い経験があります。お客様をビジネス戦略の中心に位置付ける IBM Smarter Commerce アプローチを採用することで、ビジネスおよび MFT COE を共通の一連の目標に合致させることができ、バリュー・チェーン全体での実行が最適化されます。IBM の製品、そして業界のスペシャリストは、組織における現在のファイル転送アプローチの評価を支援して、MFT COE の確立に向けたガイダンスを提供できます。

IBM は、それぞれの業界に応じて、MFT に焦点を当てた技術的価値とビジネス価値の評価を提供します。この評価は、組織と IBM との共同の取り組みであり、現在のファイル転送インフラストラクチャーと運用慣行を評価し、実用的な推奨事項と投資収益率 (ROI) 分析を提供することを目的としています。この評価では、パートナー、サプライヤー、顧客の拡張バリュー・チェーンのほか、内部と外部の両方の、ファイル・ベースのデータ移動について検討します。

MFT COE の確立について支援を必要とされるお客様は、IBM にお問い合わせください。このサービスにより、お客様は、MFT 製品における投資を合理化し、機能を提供するための標準化されたアーキテクチャー的アプローチを構築し、ビジネス・バリュー・チェーン全体のサービス提供とサポートを最適化するための運用プロセスと手順を確立できるようになります。IBM Smarter Commerce 戦略は、データやビジネス価値の提供、MFT インフラストラクチャーに関連する TCO の削減を支援します。



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19-21

「接続と統合機能」については、こちらをご覧ください。
ibm.com/software/products/jp/ja/category/SW666

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、および Smarter Commerce は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

IT Infrastructure Library は英国 Office of Government Commerce の一部である the Central Computer and Telecommunications Agency の登録商標です。

Microsoft は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

ITIL は英国 The Minister for the Cabinet Office の登録商標および共同体登録商標であって、米国特許商標庁にて登録されています。本書の情報は最初の発行日の時点で得られるものであり、予告なしに変更される場合があります。

すべての製品が、IBM が営業するすべての国で入手できるわけではありません。

本書の情報は、現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証、および第三者の権利の不侵害の保証も含むすべての明示もしくは暗示の保証責任を負わないものとします。IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

お客様は自己の責任で関連法規を順守しなければならないものとします。IBM は法律上の助言を提供することはいたしませんし、また、IBM のサービスまたは製品が、お客様においていかなる法を順守していることの裏付けとなることを表明し、保証するものでもありません。

© Copyright IBM Corporation 2012



Please Recycle
